

測システム等が導入される予定である。

この完成に伴い、我々の研究室もラボに移転し、これから本格的なVR研究を行うことができるものと大いに期待しているところである。

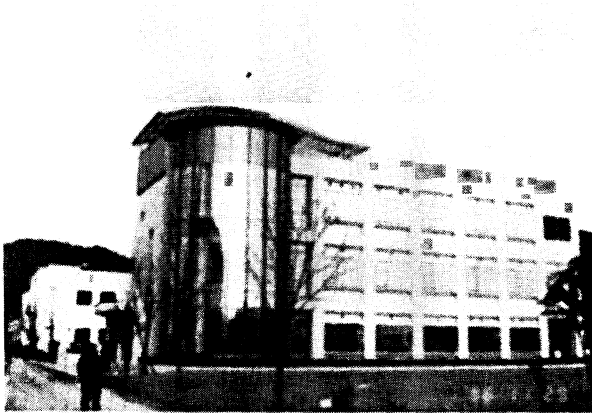


Photo 3 Virtual System Lab of Gifu Univ.

#### V S M M '96国際会議：

昨年のVSMM'95国際会議に引き続いて、本年はV S M M国際学会と日本VR学会との共催の下に、日本VR学会会長館 日章東大教授を大会委員長に迎えて、"バーチャルシステムとマルチメディアに関する国際会議 VSMM'96in Gifu" を平成8年9月18-20日の3日間、長良川国際会議場において開催した。

ここでは、MITのトーマス・B. シェリダン及びデイビッドゼルツァー両教授、カーネギーメロン大ロボット研究所長の金出武雄教授、アーティフィシヤルリアリティ社のマイロン W. クルーガー博士、VR Solutions社のロバートストーン教授等の蒼々たるVR研究者による招待講演が行われた (Photo 4参照)。

一般学術講演においても、13カ国から約350名の研究者・技術者の参加があり、今回から35歳以下の若手研究者の中で、特に優秀な論文発表者4名には論文賞が授与されている。

また、同時に開催した市民講座には約500名の市民の参加者があり、VRに対する一般市民の関心が高いことを示していると言えよう。岐阜県下においては、CG及びマルチメディア分野の研究開発拠点を目指して、本年6月には"ソフトピアジャパン" (大垣市、12ha) を完成している。

一方、先にも述べたように岐阜大学には、VRの基礎・応用研究に関する新しいVSラボがこの11月に完成し、本格的にVR研究を推進するための環境が整いつつある。

さらに、平成10年度完成を目指してVRの業務用団地"VRテクノジャパン" (各務原市、17ha) を現在建設中である。

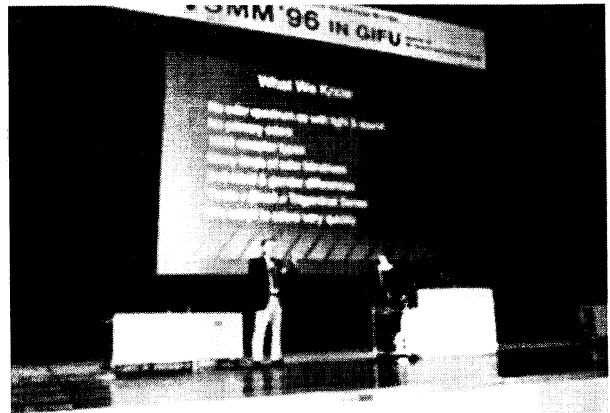


Photo 4 Intern. Conf. on VSMM'96 in Gifu.(invited speaker: Dr. Myron Krueger)

このように、近年本県においてはVRとマルチメディアに関する研究・開発環境が次第に充実されつつあり、世界的な研究・開発交流を推進すると同時に、地域産業の発展にも大いに貢献して行く必要があると考えている。

小鹿丈夫

岐阜大学電子情報工学科・教授

〒501-11岐阜市柳戸学1-1

TEL 058-293-2710, FAX 058-230-1770

E-mail: ojika@ojk.info.gifu-u.ac.jp

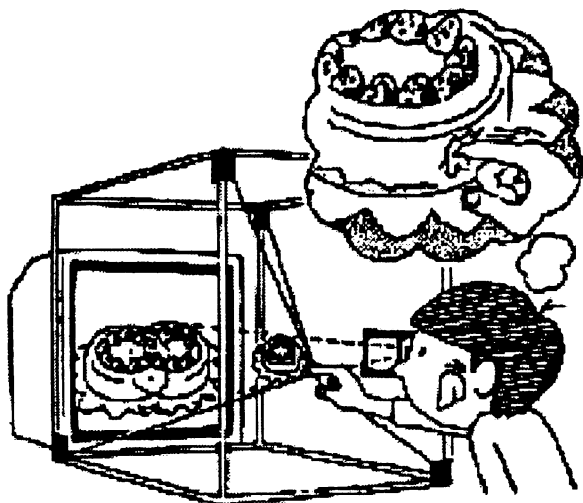
### ●研究室紹介●

## 佐藤研究室

東京工業大学精密工学研究所

佐藤 誠

クモの仲間は世界中に約30万種類もいるそうです。昆虫に劣らず、地球環境にとてもうまく適応している生き物といえましょう。私たちの研究室では、このクモを仮想世界で育てています。



SPIDAR

クモには、コガネグモのようにりっぱな網を作り、獲物を待ち受ける造網性のクモとハエトリグモのように網を張らないで自ら獲物を探しに行く徘徊性のクモとがあります。私たちのところでは、もともと徘徊性のクモを調べていました。網をもたないクモたちは一見気楽そうですが、実は苦勞が絶えません。なにしろ、日々の食べ物を自らの手で見つけなければならぬのですから。このために徘徊性のクモは目による視覚機能を高度に発達させました。ところで、クモの目玉は幾つあるかご存じですか。答は8個です。徘徊性のクモの面白いところは、このたくさんの目をとても巧みに機能分化させていることです。ハエなどの動く物を見つけ出すための物体検出の目、そつと獲物に近付くための物体追従の目、それから、物体認識の目。これもとても大事な目です。恋愛の相手をハエと間違えて食べてしまつては大変ですから。これらの目がどのように働いているかをよく調べて、仮想世界で自由に動き回ることのできるクモが育つたらいいなと考えています。

私たちの研究室では、数年前から造網性のクモも飼うことにしました。はじめはとてもか弱く、触るとクックツというだけで、足取りも頼りなかったのですが、近頃はとても力がついて、元気がよくなりました。このクモを2匹、4匹と増やして行くと、仮想世界がとても楽しくなります。最近では、綱引きのように力を伝え合つたり、部屋の内隅から長く糸を張るクモもあらわれ、研究室はクモの巣だらけになってきて、少し困っています。でも、外の

世界には土の中にもぐり込むクモや、投げ縄を振り回すクモなど、まだまだユニークな網の使い手たちが沢山います。そんな仲間も研究室にやってくるといいなと思います。でも、タランチュラのような毒グモは今のところ飼うつもりはありませんから、恐がらずに皆さん是非遊びにきてください。

限りなく透明な仮想世界で、徘徊性のクモたちや造網性のクモたちと一緒に楽しくタランテラを踊ること、これが私たちの研究室の夢です。



Networked SPIDAR

佐藤 誠

東京工業大学 精密工学研究所・教授  
〒226 横浜市緑区長津田町 4259  
Tel : 045-924-5050, Fax : 045-924-5016  
E-mail: msato@pi.titech.ac.jp